

令和7年度 歌島中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

◆全国学力・学習状況調査

＜国語＞「言葉の特徴や使い方に関する事項」に関する問題は、全国平均に比べ+1.7であった。「話すこと・聞くこと」に関する問題は、全国平均に比べ-6.1であった。「書くこと」に関する問題は、全国平均に比べ-5.4であった。「読むこと」に関する問題は、全国平均に比べ-1.8であった。「知識・技能」に関する問題は、全国平均に比べ+1.7であった。「思考・判断・表現」に関する問題は、全国平均に比べ-4.7であった。「選択式」に関する問題は、全国平均に比べ-3.1であった。「短答式」に関する問題は、全国平均に比べ+0.5であった。「記述式」に関する問題は、全国平均に比べ-7.4であった。

＜数学＞「数と式」に関する問題は、全国平均に比べ-4.8であった。「図形」に関する問題は、全国平均に比べ-3.5であった。「関数」に関する問題は、全国平均に比べ+1.9であった。「データの活用」に関する問題は、全国平均に比べ-7.7であった。「知識・技能」に関する問題は、全国平均に比べ-3.6であった。「思考・判断・表現」に関する問題は、全国平均に比べ-4であった。「選択式」に関する問題は、全国平均に比べ-6.3であった。「短答式」に関する問題は、全国平均に比べ-2.8であった。「記述式」に関する問題は、全国平均に比べ-3.4であった。

＜理科＞「エネルギー」に関する問題は、全国平均に比べ±0であった。「粒子」に関する問題は、全国平均に比べ+0.7であった。「生命」に関する問題は、全国平均に比べ-0.8であった。「地球」に関する問題は、全国平均に比べ+0.8であった。「知識・技能」に関する問題は、全国平均に比べ+0.8であった。「思考・判断・表現」に関する問題は、全国平均に比べ-0.2であった。「選択式」に関する問題は、全国平均に比べ-0.6であった。「短答式」に関する問題は、全国平均に比べ+15.8であった。「記述式」に関する問題は、全国平均に比べ-0.3であった。

【今後に向けて】

＜国語＞「国語の勉強は好きですか」「国語の授業内容はよく分かりますか」の生徒質問に対して、肯定的な評価が全国平均を上回ったにもかかわらず、平均正答率は全国平均を下回った。特に「話すこと・聞くこと」、「思考・判断・表現」、「記述式」に関する問題で、特に全国平均との差があるため、これらの分野を伸ばす取り組みが必要である。

＜数学＞「数学の勉強は好きですか」「数学の授業内容はよく分かりますか」の生徒質問に対して、肯定的な評価が全国平均を上回ったにもかかわらず、平均正答率は全国平均を下回った。特に「データの活用」、「思考・判断・表現」、「選択式」に関する問題で、特に全国平均との差があるため、これらの分野を伸ばす取り組みが必要である。

＜理科＞「理科の勉強は好きですか」「理科の授業内容はよく分かりますか」の生徒質問に対して、肯定的な評価が全国平均を下回ったにもかかわらず、平均正答率は全国平均を上回った。特に「生命」、「思考・判断・表現」、「選択式」に関する問題で、特に全国平均との差があるため、これらの分野を伸ばす取り組みが必要である。

令和7年度 歌島中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

◆3年生チャレンジテストの課題と対策

【国語】

1. 「情報の扱い方に関する事項」の対策

複数の資料を扱う活動を意図的に増やし、「情報を選び出す力」から「情報を活用する力」へのステップアップを図ります。

資料の比較・統合練習: 文章だけでなく、図表、グラフ、写真などの複数の資料を読み込み、それらを関連付けて解釈する練習を授業や宿題に取り入れます。

構成・表現の指導の強化: 「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の活動において、情報をもとに自分の考えを論理的に構成する手順(例:主張→根拠→結論)を明確に指導し、構成メモやアウトライン作成の練習をします。

「推敲」の習慣化: 記述問題や作文の練習において、内容の要点や表現の適切さに着目して自分の文章を客観的に見直す時間を確保し、推敲の重要性を指導します。

2. 「短答式」問題への対策

基礎知識の定着度と、それを簡潔にアウトプットする力を養成します。

語彙・文法事項の定着: 語句の意味、文法の知識、慣用句などの基礎的な事項について、小テストやドリル学習を定期的に行い、知識の正確なインプット・アウトプットを習慣化します。

正確な抜き出し練習: 文章中の答えとなる部分を過不足なく正確に抜き出す練習を繰り返して行い、指示に従って解答する力を高めます。

3. 無解答率の改善と時間配分の指導

生徒の粘り強さと、全問に解答しようとする意欲を高めます。

記述への抵抗感の軽減: 「完璧な文章でなくても、まず書く」ことを推奨し、簡単なキーワードや骨子だけでも記述する訓練を初期段階で取り入れます。

時間配分の意識付け: 演習問題や模擬テストの実施時に、各大問や設問にかける目安の時間を設定させ、残り時間を意識しながら解答を進める練習を繰り返して行う。特に、難しい問題に固執せず、一旦飛ばして他の問題を解き進める時間配分の戦略を指導します。

【社会】

1. 知識の「定着」から「活用」への移行

単なる暗記ではなく、知識がどのように役立つかを理解させる学習活動を強化します。

因果関係の重視: 歴史では、出来事の背景、原因、結果をセットで覚えるように指導します。「なぜその出来事が起こったのか」「その結果何が変わったのか」を問い合う活動を取り入れます。

地理的背景の理解: 地理では、産業や地域の特色について、「なぜその場所に立地しているのか」「そのことによるメリット・デメリットは何か」を説明させる指導を徹底します。

2. 資料読解・論理的記述力養成の強化

社会科の記述問題の「型」を習得させ、思考過程を明確にする訓練を行います。

記述の段階的指導:

キーワード抽出: 資料から解答に必要な情報と、背景知識から必要な用語を抜き出す。

構成の型: 「○○という事実から、△△と考える。その背景には××がある。」など、論理的な型を提示し、それに当てはめて文章を作成させる。

多角的な分析練習(記述式対策): 歴史的分野の記述問題(設問④①など)対策として、複数の要因(例:経済的側面、政治的側面、社会・文化的側面など)に着目して資料を読み解き、結論を導く練習を重点的にを行います。

短答式・用語訓練: 用語の定義を正確に書かせる\*\*「用語の言い換え」練習や、資料中の空欄に文脈に合う用語\*\*を的確に埋める演習を日常的に行います。

3. 全問解答への意識付けと時間管理

無解答率を下げるための指導を行います。

粘り強さの育成: 記述式問題において、「完璧でなくても良いから、資料の言葉を使って、知っている知識を少しでも書く」という姿勢を指導し、部分点獲得を目指すよう促します。

時間配分の指導: 問題演習時、各大問にかける目安の時間を意識させ、時間内に全問に取り組むための計画的な解き方を身につかせます。

【数学】

1. 「データの活用」領域の集中的な強化

実生活や社会の事象と数学を結びつける訓練を重点的にを行います。

問題の「解釈」練習: 与えられたグラフや表が何を示しているのかを正確に読み取る練習(読解力)を最初に行い、その上で「交点の座標が表す意味」など、事象に即して解釈し説明する訓練を強化します。

関数の応用: 1次関数やその他の関数を、単なる計算練習で終わらせず、「参加者数と総額の関係」のように、具体的な事象と結びつけてモデル化し、問題を解決する過程を体験させます。

2. 基礎的な知識・技能の確実な定着

基礎知識の反復学習と、正確なアウトプットを促します。

基礎ドリルと小テスト: 数と式、図形の基本的な公式、定理、基本的な計算(正負の数の計算、式の展開・因数分解など)について、短時間で正確に解答するための反復学習ドリルや小テストを継続的に実施します。

過程の重視: 計算問題や証明問題では、正解だけでなく、途中の式や論理の流れを記述させる指導を強化し、知識を正確に使う力を養います。

3. 無解答率の改善(粘り強さと時間管理)

解答へのハードルを下げ、全問への取り組み意識を高めます。

解答の試行錯誤を奨励: 難しい問題でも、\*\*「まずは分かるところまで手を動かす」\*\*ように指導し、無解答を避ける意識を高めます。部分点獲得を目標とすることで、記述への心理的な抵抗を減らします。

時間配分のシミュレーション: 模擬テストを行う際、各大問の配点や難易度に応じて、各自で目安の時間を設定させ、時間内に全問をチェックする練習を定期的に行います。

【理科】

令和7年度 歌島中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

◆3年生チャレンジテストの課題と対策

【数学】

1. 「データの活用」領域の集中的な強化

実生活や社会の事象と数学を結びつける訓練を重点的に行います。

問題の「解釈」練習: 与えられたグラフや表が何を示しているのかを正確に読み取る練習(読解力)を最初に行い、その上で「交点の座標が表す意味」など、事象に即して解釈し説明する訓練を強化します。

関数の応用: 1次関数やその他の関数を、単なる計算練習で終わらせず、「参加者数と総額の関係」のように、具体的な事象と結びつけてモデル化し、問題を解決する過程を体験させます。

2. 基礎的な知識・技能の確実な定着

基礎知識の反復学習と、正確なアウトプットを促します。

基礎ドリルと小テスト: 数と式、図形の基本的な公式、定理、基本的な計算(正負の数の計算、式の展開・因数分解など)について、短時間で正確に解答するための反復学習ドリルや小テストを継続的に実施します。

過程の重視: 計算問題や証明問題では、正解だけでなく、途中の式や論理の流れを記述させる指導を強化し、知識を正確に使う力を養います。

3. 無解答率の改善(粘り強さと時間管理)

解答へのハードルを下げ、全問への取り組み意識を高めます。

解答の試行錯誤を奨励: 難しい問題でも、「まずは分かるところまで手を動かす」\*\*ように指導し、無解答を避ける意識を高めます。部分点獲得を目標とすることで、記述への心理的な抵抗を減らします。

時間配分のシミュレーション: 模擬テストを行う際、各大問の配点や難易度に応じて、各自で目安の時間を設定させ、時間内に全問をチェックする練習を定期的に行います。

【理科】

1. 「粒子」領域(化学)の知識の徹底と計算演習

化学分野の基礎概念を視覚的に理解させ、計算を伴う問題への抵抗を減らします。

モデルを活用した指導: 原子、分子、イオン、化学反応(特に中和)のモデルや図を使って、目に見えない粒子の動きや結合の仕組みを視覚的に理解させます。

計算問題の反復: 質量保存の法則や化学変化の量の関係など、計算を伴う問題を授業で丁寧に扱い、解法パターンを定着させるためのドリル演習を増やします。

2. 記述力・論理的思考力の養成

「なぜそうなるのか」を明確に言語化する訓練を強化します。

記述の「型」指導: 記述問題の解答作成において、「観察・実験事実(根拠)→理科の知識・法則→結論(説明)」という論理的な構造を意識させます。

短文での説明練習: 難しい記述問題にすぐに取り組ませるのではなく、短い文章(例:「○○の理由を△△という語句を使って簡潔に述べよ」)で、用語の定義や現象の理由を正確に説明する練習を日常的に取り入れます。

3. 「地球」領域と無解答率対策

観測のイメージ化: 地学分野(特に天体)については、図やシミュレーションを活用し、現象を立体的に捉える力を養います。

4. 無解答率の改善(粘り強さと時間管理)

粘り強い解答指導: 記述問題や短答式問題で、無解答を避けるように指導し、分からなくても関連用語や図表のヒントから解答を試みる姿勢(部分点獲得の意識)を徹底させます。

【英語】

1. 「聞くこと」の訓練の高度化

単語を聞き取るだけでなく、内容の要点や複数の情報を記憶・統合する訓練に焦点を当てます。

情報整理型リスニング: 音声聞きながら、メモを取る、チェックリストを埋める、表を完成させるなど、聞いた情報を視覚的に整理する活動を取り入れ、情報の取捨選択と保持力を高めます。

要約・復唱練習: やや長めの対話やモノローグを聞いた後、聞いた内容の要点を英語で復唱したり、要約を記述したりする練習を導入し、内容の包括的な理解を促します。

2. 「書くこと」の段階的な指導と表現力の強化

記述式の得点率改善のため、正確な文法と豊富な表現のストックを増やします。

「型」を活用した作文練習: 意見を述べる、理由を説明する、経験を伝えるといった典型的な英文の「型」(例: I think that... because...)を定着させ、まずは正確な文法で文を構成する訓練を徹底します。

語彙・構文のインプット: 授業で扱った文章や対話から、表現力の高い単語や定型的な構文をピックアップし、それを自分の作文で使ってみる練習を奨励します。

3. 文法知識の「運用」練習の強化

基礎知識を応用して、複雑な文構造を構築する力を養います。

並べ替え問題の強化: 並べ替え問題を解く際に、\*\*なぜその語順になるのか(主語、動詞、目的語、修飾語句の関係)\*\*を口頭で説明させるなど、文構造を意識した演習を行います。

即時英作文(クイックライティング): 日本語の短文(例:「私は昨日、友達と図書館で勉強する予定だったが、雨が降ったので家で過ごした」)を、すぐに英語で表現する練習を取り入れ、文法知識を即座に運用する力を高めます。

令和7年度 歌島中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

◆大阪府チャレンジテスト2年

【国語】

〈成果〉平均点は 府平均とはほぼ同水準(本校64.08・府64.45)。「読むこと(内容理解・語句の意味)」は府と同等の正答率であり、長文読解の基礎はできている。「敬語の使い方」「文章の要点把握」など記述系も基礎は概ね府並みであった。

〈課題〉「修飾関係の理解」「文章全体と部分の関係(構成理解)」の正答率が低い。つまり本文中の位置選択や文章構造を問う問題で課題がある。また、記述式で「根拠を示して説明する」問題の正答率が府より低い。

〈対策〉文章構造(接続・段落関係)を意識させる読解指導、要約トレーニングで主述関係を明確にする指導、記述は「根拠 → 理由 → 結論」テンプレートで書く指導、接続語・修飾語を扱う文法的読解練習指導

【数学】

〈成果〉「連立方程式」「一次関数の基礎」など計算・基本処理は府平均に近い。図形分野では、平行線の性質、合同条件の理解は府と同等以上である。

〈課題〉平均点が 本校52.15 < 府55.00(約-3点)。大きな課題は文章量の多い応用問題・説明問題にある。特に、「理由を書く」「情報を整理して方程式を立てる」問題が弱い。また、関数の変域・グラフ読解・実生活問題の正答率が低い。

〈対策〉数量関係を図・表で整理させる学習、説明問題は「図 → 計算 → 結論」の型を指導、関数の単元は表→式、式→グラフ、グラフ→読み取りの三段階で丁寧に指導、実生活問題を使い「何をxと置くか」を練習

【理科】

〈成果〉平均点 本校49.26 > 府46.69(約+2.6点)である。「エネルギー」「生命」など暗記+理解問題は府を上回る。実験考察問題の一部(気体の性質など)でも府より高い正答率。

〈課題〉「地学分野(気圧・天気)」で府と同程度またはやや低い。実験の手順理由を書く問題で無回答率が高い。化学分野の 質量計算・反応式の理解が不十分。

〈対策〉実験ノートの書き方(目的→手順→結果→考察)を徹底する。気象は 簡易天気図問題の反復練習を行う。化学は図式化(質量比の図)、反応式カード学習で視覚的理解を促す。

【社会】

〈成果〉平均点は府とほぼ同等。地理の資料読み取り(雨温図・グラフ) は比較的できている。歴史の文章正誤・出来事順序の基礎理解は府並み。

〈課題〉「理由を書く記述」で府より低い(無答も多い)。歴史の文化史(人物・作品)の正答率が低い。地理の地図からの位置判断に弱さ(新幹線の路線・県の場所など)。

〈対策〉地図帳を使った位置確認のルーティン化、文化史は画像(美術・建築)とセットで学ぶ。資料読み取りは「何が増加?」「どこと比較?」のフレームを教える。記述は「資料→特徴→理由」の型を指導する。

【英語】

〈成果〉「短いやり取りの聞き取り」は府より高め。単語・文法(助動詞、疑問詞など)基礎問題は良い。スピーチ原稿の読み取りでは、内容理解の基礎はできている。

〈課題〉平均点は本校48.39で 府51.78(約-3.4点)。課題が明確で長いリスニング、場面理解、英文を選ぶ読解、英作文(Eメールなど)で府より低い。英文の語順感覚が弱く、記述で文が完成しないパターンが多い。

〈対策〉音読+シャドーイングによる英文処理速度の向上、スピーチ原稿・Eメールを使った「英語での要点メモ → 文を組み立てる」練習、語順トレーニング(S+V/When~/What time~/等のパターン練習)、リスニングは「設問先読み → キーワード待ち受け」の戦略指導

令和7年度 歌島中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

◆大阪府チャレンジテスト・大阪市チャレンジテストプラス(1年)

【国語】

(成果)本校と大阪府の平均点はほぼ同じ。「語句の意味理解」「筆者の考えの捉え」等、読み取りの基本部分は府と近い水準にある。

(課題)語句・文法(書く)領域が弱い。書く技能が全体として安定していない。物語・説明文の深い読解ができていない。記述的問題での無解答率が高く、書くことへの苦手意識が強い。

(対策)語句・漢字の反復学習(短時間×高頻度)を行う、毎時間のミニテストを行う、漢字の使い分け・熟語の意味学習をセットで行う、「読む→書く」一体型の授業を行う、段落要旨の言語化練習をする、書かせる量を確保する、記述問題の型トレーニングを行う。

【数学】

(成果)大阪府平均より高い。「数と式」「方程式」「反比例」など計算・知識領域で府を上回る。

(課題)図形(作図・移動)で府よりやや弱い。関数の意味理解(グラフの解釈)が弱い。

文章題・数量関係の表現に弱く、文章量が増えると正答率が落ちる傾向がある。

(対策)図形の操作・作図の実践量を増やす。タブレットの作図アプリを活用する。図形の移動を“動かして見せる”指導を行う。関数の読み取りトレーニング。速度・料金など生活文脈のグラフ読解を行う。「変化の割合」を言葉と計算で説明する。文章題の読解→数式化の手順化の練習をする。表・線分図・図示の使い方を統一する。「問題を図にする」を授業で徹底する。

【英語】

(成果)聞く力は比較的高い。短いやり取りの理解(会話リスニング)は良い。

(課題)平均点は明確に府平均を下回っている。読むこと(リーディング)が弱い。特に内容把握、書くことが弱い。文法・語順の理解が不安定である。

(対策)音声→文字の往復練習(聞く→書く)。リスニングで聞いた英文を短文で書き取る練習を行う。英文の“型”反復(テンプレート学習)。メール文・会話文の“読解の手順”を明確化する。選択肢を“消去法で落とす”訓練を行う。授業で書く量を増やす。3語記述を毎時間1問、週1回 50～70語程度の短文作文を行う。

【社会】

(成果)地理分野の基礎理解は比較的稳定している。「大陸分布」「緯度・経度」「気候・衣服と自然環境」などで市平均に迫る設問も多く、地図の読み取りや事象の基本認識は一定程度身につけている。歴史分野では“農耕の広まり”“大化の改新”などが良い。

(課題)総合すると、市平均より約6点低い。学年全体として基礎の取りこぼしが見られる。歴史分野の記述問題が顕著に弱く、記述・説明が弱い。地理の基礎概念(日本の領土、経済水域など)で市平均との差が大きい。無答率が高い問題が複数ある。記述問題で無答30～40%の設問が複数あり、書けないことが得点差を生んでいる。

(対策)記述指導の徹底(書き方の型を教える):「理由→根拠→結論」の3ステップで書く練習。教室内で短文記述の“毎時間1問”ルーティン化する。模範解答を「構造化」して示す。地理の基礎語彙・基本概念を補充する。図解+短答形式で定着を図る。資料読み取り演習の回数を増やす。表・グラフ・地図を“読み取る手順”を教える。低得点層への補習・ICT活用。無答生徒への“書くための語彙カード”作成。チャレンジテスト類題をタブレットで反復学習

【理科】

(成果)基礎問題に強い。エネルギー、生命分野で比較的高く、実験観察系の理解が良好。基礎的理解は学年でほぼできている。

(課題)思考・判断・表現が特に弱く、図示・説明・比較など、理由づけが弱い。粒子分野(水溶液・溶解度)に課題。記述・短答問題の正答率が大きく低く、操作過程を言語化できていない。

(対策)実験を“言語化する習慣づけ”を行う。実験後、「①目的→②方法→③結果→④理由」

の4ステップで板書行う。生徒ノートも同じ構造に統一する。粒子分野(溶解度・状態変化)を重点補強する。モデル図を書く練習を毎時間行う。短答問題対策(単語→短文→説明文の段階指導)を行う。最初は「語句だけ」で答えさせ、次に「語句+理由1行」最後は「語句+理由2行」と段階的に伸ばす。計算問題の徹底反復(溶解度・密度・力の計算)。1問1計算の“小テストループ”手順化(①式を書く→②代入→③単位確認)

令和7年度 歌島中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

◆GTEC

(成果)

○英語4技能の基礎はおおむね定着している。前年度・前回と比べて大きな落ち込みはなく、一定の安定感がある。特にリーディング・リスニング・ライティングは全国平均と概ね同水準。

→「身近な話題で、簡単な情報のやり取りができる」という中学校英語の到達目標の土台は概ね達成できていると言える。

○ライティングは比較的良好(4技能中で最も強み)、文程度で自分の考えを書く力は多くの生徒が身につけている。

→書くことへの抵抗感が小さい学年、授業やワークでの「書く活動」が一定の成果を上げている

○情報検索型リーディングには対応できている

パートB(概要把握・情報検索)は比較的正答率が高く、表・広告・短い説明文など目的をもって読む活動には一定の対応力がある。

(課題)

○スピーキングが明確な弱点。「とっさに答える」、「一文でも発話すること」に大きな課題がある。

特に、文として話そうとすると沈黙する、語句は知っているが、口から出せない。

→知識はあるが、運用できていない典型的な状態

○リーディングの「読む速さ・深さ」。50語未満が半数以上。長文になると内容理解が浅い選択肢に引きずられて誤答する傾向

→精読以前に、英語を英語のまま追う処理速度が不足

○聞き取りは「単語→意味」で止まっている。課題が見られるのは、パートB(会話応答)、パートC(課題解決)

単語は聞こえているが、意味のまとまりで処理できていない

○技能間のバランスが悪い。受信(読む・聞く) > 発信(書く・話す)。特に「書けるが話せない」、「読めるが反応できない」

→高校段階以降で「使えない英語」になりやすいリスク

(対策)

○スピーキング:量と心理的ハードルを下げる

→正確さより「出すこと」を優先、完全文でなくてよい。1単語・1フレーズ発話OKルール。ペアでの「定型Q&A」反復。音読→言い換え→即答の段階指導。「話してもいい」「間違えていい」空気づくりが最重要

○リーディング:WPM向上と意味のかたまり読み

→正解主義から「処理主義」へ

→1分リーディング(内容は簡単でOK)、スラッシュリーディング(文を意味のまとまりで区切る)、主語・動詞探しワーク(1文1分)、「ゆっくり正確」より「多少雑でも速く」

○リスニング:音→場面イメージへ、日本語訳しない聞き方を育てる

→ポーズ付きリスニング(1文ごとに停止→「何の場面?」)、絵・写真・図と結びつける、シャドーイングは「短く・部分的に」

○ライティング→スピーキング接続

→書ける力を「話す力」につなぐ

→書いた英語をそのまま音読→少し変えて発話、書く→ペアで説明→全体共有、型(because / for example / I think)の音声化

令和7年度 歌島中学校のあゆみ  
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

◆令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」

【男子】

(成果) 体力合計点は全国平均を超えている。特に、瞬発力や筋力といった「静的・動的なパワー」において全国平均を大きく上回る成果が見られます。また、運動部に所属する生徒の割合が高く、日常的な運動強度が確保されています。

(課題) 柔軟性が低下しており、怪我のリスクが高い。また、スポーツに熱心な層と、全く運動しない層の差が拡大しています。特に、1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合が全国平均より高くなっている。

(対策) ウォーミングアップに動的ストレッチ(ブラジリアン体操等)などの柔軟性強化プログラムを導入し、可動域を広げる指導を行います。「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問項目に対し、肯定的な回答がほぼ全国平均と同じであったが、非運動部員へのアプローチとして、レクリエーション要素の強い学内スポーツイベントを企画し、「運動＝楽しい」という意識をさらに醸成し、体力の向上につなげたい。

【女子】

(成果) 体力合計点は全国平均を超えている。特に、シャトルラン等のスコアが安定しており、粘り強く取り組む姿勢が見られます。

(課題) ハンドボール投げの数値が低く、肩関節の使い方や全身の運動性に課題があります。また、1週間の総運動時間が60分未満の生徒の割合が全国平均より高くなっている。さらに、「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問項目に対し、肯定的な回答がほぼ全国平均を下回った。

(対策) これらの対策として、投球動作を「遊び」として取り入れる(紙鉄砲やfrisbee等)ことで、楽しみながらフォームを改善したり、卒業後も継続しやすいヨガ、ピラティス、バドミントンなどを体育の授業に取り入れ、運動の「習慣化」を支援する。

【総括と今後の方向性】

数値目標の達成だけでなく、生徒一人ひとりが「生涯にわたってスポーツに親しむ資質」を養うことを目指す。